

ごみ処理基本計画の進行管理(令和元年度実績)

一般廃棄物(ごみ)処理基本計画

— 未来へつなぐ“循環型都市よこすか”の創造 —

資源循環部 資源循環総務課

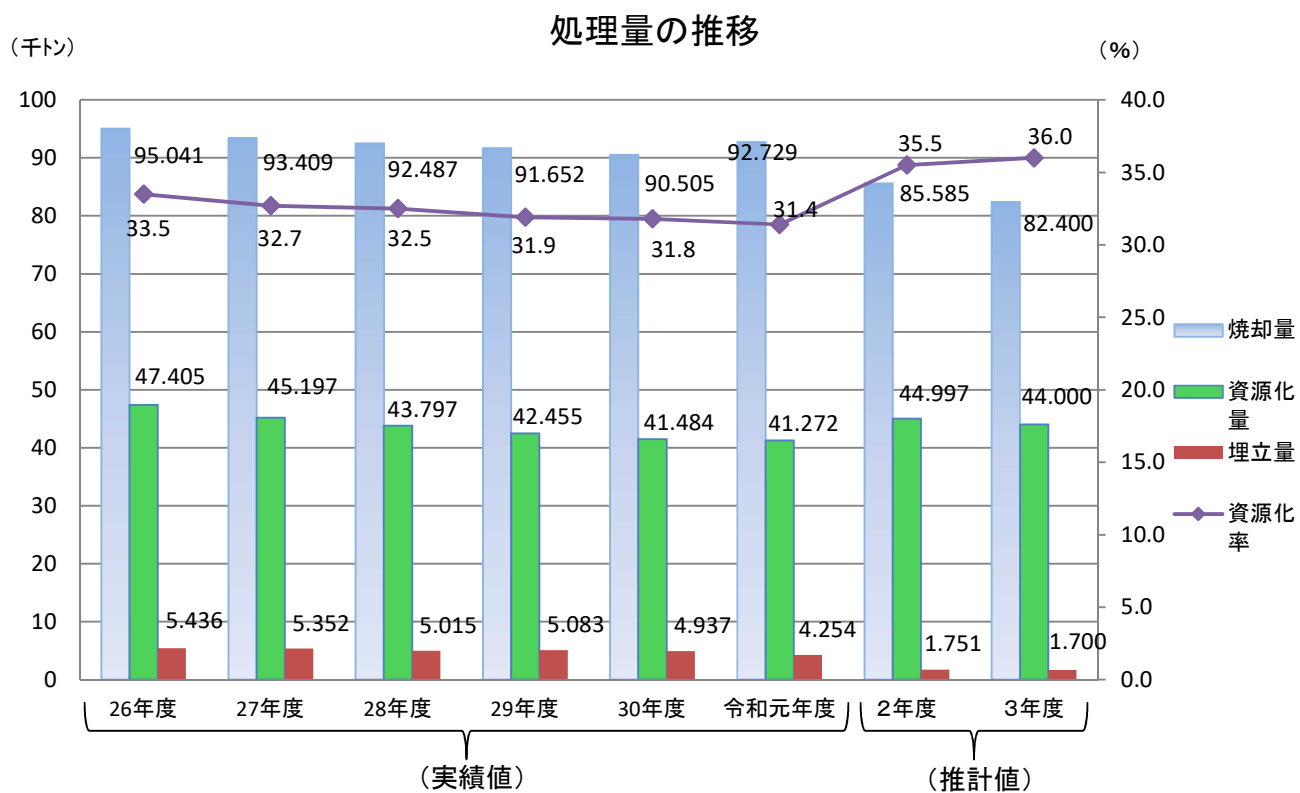
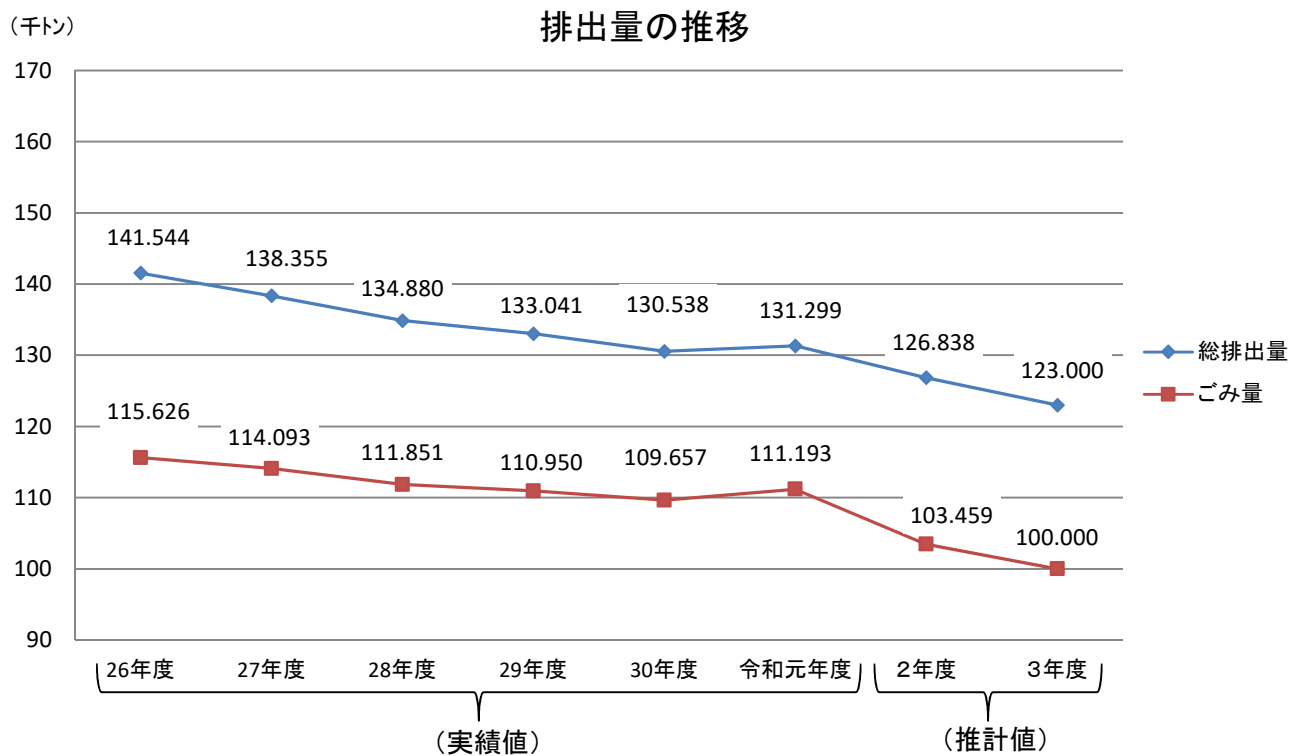
令和2年12月

ごみ処理基本計画の評価指標および実績値・目標値

項 目		単 位	平成27年度 (基準年度)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和3年度 (目標年度)	
循環型 社会 形成	排出量	総排出量	t/年	138,355	133,041	130,538	131,299	123,000
		ごみ量	t/年	114,093	110,950	109,657	111,193	100,000
		集団資源回収量	t/年	24,262	22,091	20,881	20,106	23,000
		1人1日排出量 <small>注1)</small>	g/人・日	750	742	740	758	695
		1人1日総排出量 <small>注1)</small> (集団回収を含む)	g/人・日	910	890	881	895	855
	処理量	焼却量 (焼却率)	t/年 (%)	93,409 (81.9%)	91,652 (82.6%)	90,505 (82.5%)	92,729 (83.4%)	82,400 (82.4%)
		埋立量 (埋立処分率)	t/年 (%)	5,352 (4.7%)	5,083 (4.6%)	4,937 (4.5%)	4,254 (3.8%)	1,700 (1.7%)
		資源化量	t/年	45,197	42,455	41,484	41,272	44,000
	資源化率	資源化率	%	32.7%	31.9%	31.8%	31.4%	36%
	経 済 性	<small>注2)</small> 処理単価	総処理経費	円/t	49,064	48,202	47,367	49,856
収集経費			円/t	27,073	27,196	28,212	28,353	—
中間処理経費			円/t	24,506	23,988	23,865	26,414	—
最終処分(埋立)経費			円/t	94,856	117,893	89,257	95,931	—
資源化経費			円/t	30,473	31,325	32,236	37,966	—
1人当たり年間処理経費			円/人・年	13,766	13,395	13,113	14,128	—
【参考】* 住民基本台帳人口		人	415,375	409,478	406,003	401,977	—	
* 将来推計人口(H26年5月推計)			415,487	408,369	404,552	401,229	394,100	

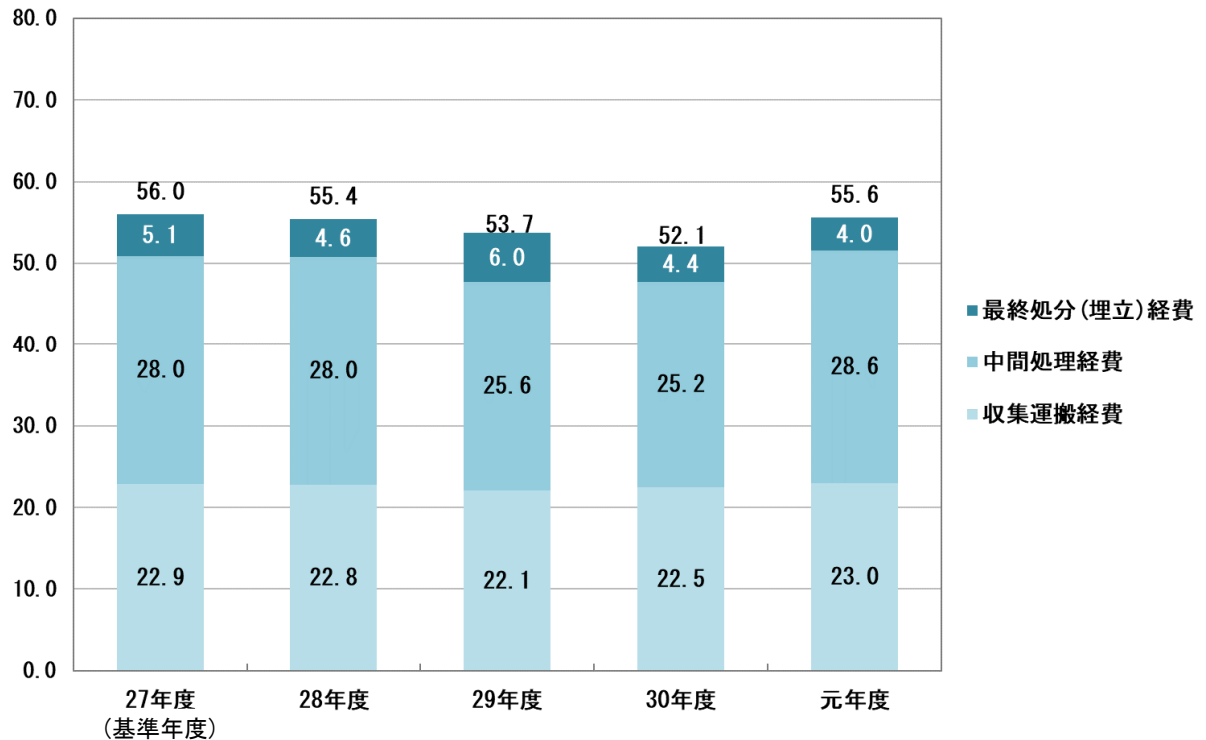
注1) 「1人1日排出量」及び「1人1日総排出量(集団回収を含む)」の実績は、「ごみ量」及び「総排出量」を「住民基本台帳人口」で割っているが、令和3年度(目標年度)は「将来推計人口」(横須賀市都市政策研究所にて推計)で割って算出している。

注2) 処理単価は、神奈川県一般廃棄物処理実績報告の作成基準に基づいて算出している。また、平成27年度～30年度の処理単価は、東日本大震災の影響により生じた追加的費用について東京電力損害賠償金を減額して算出している。



ごみ処理経費の推移

(億円/年)



(注) ごみ処理経費は、平成30年度まで東京電力損害賠償金額を減額して算出している。

【各経費の主な内訳】

- ・収集運搬経費…人件費（収集担当職員、一般職員※）、車両購入費、ごみ収集直営事業、ごみ収集委託事業、自動車管理事業 等
 - ・中間処理経費…人件費（工場操作担当職員等、一般職員※）、リサイクルプラザ再資源化事業、南処理工場運営事業 等
 - ・最終処分経費…人件費（一般職員※）、ごみ最終処分事業、長坂埋立地浄化センター管理事業 等
- ※一般職員の人件費は、収集運搬・中間処理・最終処分の各事業費の規模で按分して配分している。

ごみ処理基本計画 関連施策・事業等の実施状況

関連施策・事業等の体系

注) 評価基準 A : 実施している又は実施した。B1 : 一部実施している又は一部実施した。
B2 : 実施に向け準備を進めた。C : 実施していない。

基本施策		具体的施策	記載頁	担当課	評価
1. 重点施策 《第1・3章》	(1) ごみ処理広域化計画による施設整備の推進	①横須賀ごみ処理施設の建設	29	広域処理施設建設室	A
	(2) 継続的な減量化・資源化啓発事業の実施	①市民に対する分別啓発の推進	28	資源循環推進課	A
		②事業者に対する分別啓発の促進	28	廃棄物対策課	A
	(3) 植木剪定枝等、新規資源化策の実施	①植木剪定枝の資源化	資源循環総務課	29	A
			廃棄物対策課 南処理工場		A
②その他新規資源化策の検討	30	資源循環推進課	B1		
2. ごみの発生・排出抑制のための方策 《第4章》	(1) 発生抑制 (リデュース)	①市民に対する発生抑制に関する啓発	33	資源循環推進課	A
		②生ごみ等減量化処理機器の購入費補助	33	資源循環推進課	A
		③食品ロス削減に向けた取組み	資源循環総務課	33	A
			資源循環推進課		A
	④事業者に対する発生抑制に関する啓発	33	廃棄物対策課	A	
	(2) 再使用 (リユース)	①再生家具の提供	33	リサイクルプラザ	B1
		②古本・古着市の開催	33	リサイクルプラザ	B1
	(3) 再生利用 (リサイクル)	①庁舎内から出るごみの減量化・資源化の推進	資源循環推進課	34	A
			環境企画課	34	A
			環境企画課	34	A
			廃棄物対策課	34	A
	(4) 周知・啓発	①ごみ教室の開催、啓発冊子の発行	資源循環推進課	35	A
			資源循環推進課	35	A
			資源循環推進課	35	A
			資源循環推進課	35	A
			資源循環推進課	35	A
			資源循環推進課	35	A
			リサイクルプラザ	35	B1
			資源循環推進課	35	A
			リサイクルプラザ	35	A
			南処理工場	35	A
			廃棄物対策課	35	A
			資源循環推進課 資源循環久里浜事務所	35	A
(5) その他	①各リサイクル法に関する周知・啓発	資源循環総務課	35	A	
		資源循環推進課		A	
		リサイクルプラザ		A	
		廃棄物対策課		A	
		資源循環総務課	35	B1	
②家庭ごみ有料化の検討	35	資源循環総務課	B1		
③廃棄物処理手数料の検討	35	資源循環総務課	A		

注) 評価基準 A : 実施している又は実施した。B1 : 一部実施している又は一部実施した。
B2 : 実施に向け準備を進めた。C : 実施していない。

基本施策		具体的施策	記載頁	担当課	評価
3. 分別収集 と適正処理 《第5章》	(1) 分別収集区分	①ごみの種類・分別区分、排出方法の見直し	36	資源循環総務課 資源循環推進課	A A
	(2) 収集運搬計画	①直営委託区域	37	資源循環総務課	A
	(3) 中間処理計画	①再資源化处理 (リサイクルプラザ“アイクル”)	39	リサイクルプラザ	A
		②焼却処理 (南処理工場)	40	南処理工場	A
		③粗大ごみ処理 (南処理工場)	40	南処理工場	A
		④民間施設における中間処理	40	資源循環総務課 資源循環推進課	A A
	(4) 最終処分計画	①最終処分	41	南処理工場	A
	(5) 施設整備状況	①施設の長寿命化・延命化対策	43	資源循環施設課	B2
(6) 広域処理施設整備状況	①横須賀ごみ処理施設の整備	43	広域処理施設建設室	A	
4. その他 必要事項 《第6章》	(1) 計画の進行管理	①計画の点検・評価・見直しの実施	47	資源循環総務課	A
	(2) 家庭ごみ有料化の検討	①家庭ごみ有料化の検討	49	資源循環総務課	B1
	(3) 高齢化社会対策	①高齢者のごみ出し支援の検討	49	資源循環総務課 資源循環推進課	A A
		(4) 災害時の廃棄物対策	①災害時の廃棄物処理体制の確保	50	資源循環総務課
	(5) 不法投棄対策	①不法投棄防止対策の強化	52	資源循環推進課	A
	(6) ポイ捨て防止及び路上禁煙	①ポイ捨て防止及び路上禁煙の徹底	52	資源循環推進課	A
		②クリーンよこすかの推進に関すること	52	資源循環推進課	A
	(7) 海岸漂着ごみ	①海岸漂着ごみの円滑処理	52	資源循環推進課	A
	(8) 適正処理困難物・排出禁止物	①適正処理困難物・排出禁止物の処理に関する指導	52	資源循環総務課 資源循環推進課 南処理工場 資源循環久里浜事務所	A A A A
(9) 制度改善要望		①一般廃棄物の処理に関する制度改善要望	53	資源循環総務課	A

関連施策・事業等の取組実績

1. 重点施策

(1) ごみ処理広域化計画による施設整備の推進

①横須賀ごみ処理施設の建設（広域処理施設建設室）

- 平成 21 年 3 月に策定した「横須賀市三浦市ごみ処理広域化基本計画」、平成 24 年度に策定した「横須賀ごみ処理施設整備実施計画」に基づき、施設稼働に向けて各種工事等を引き続き実施し、令和 2 年 3 月から横須賀ごみ処理施設の本稼働を開始しました。

(2) 継続的な減量化・資源化啓発事業の実施

①市民に対する分別啓発の推進（資源循環推進課）

- 人口減少等により、集団資源回収量は年々減少傾向にありますが、「その他の紙」の回収促進に努めました。集団資源回収量は 20,106 トンでした。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
集団資源回収量	24,262 トン	23,029 トン	22,091 トン	20,881 トン	20,106 トン

②事業者に対する分別啓発の促進（廃棄物対策課）

- 事業系ごみ適正処理の手引きを令和 2 年 4 月に 1,676 部配布しました。
- 事業者向けの食品ロス削減啓発ポスターを 3,000 部作製しました。（令和 2 年 4 月までに 1,288 部配布）
- 廃棄物の減量化・資源化を推進するため、事業系一般廃棄物多量排出事業者から事業系一般廃棄物減量化等計画書兼実績報告書を 224 件受理し、集計結果をホームページで公表しました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
事業系一般廃棄物減量化等計画書兼実績報告書の受理	207 件	203 件	215 件	218 件	224 件

(3) 植木剪定枝等、新規資源化策の実施

①植木剪定枝の資源化（資源循環総務課）（廃棄物対策課）（南処理工場）

- 事業系剪定枝の資源化について、令和元年 11 月から民間の資源化処理施設へ搬入先が変更となる旨を周知・啓発しました。
また、民間の資源化処理施設に持ち込みができない草等を、積替保管施設で受け入れるための運営方法を検討し、令和 2 年 1 月より搬入を開始しました。

②その他新規資源化策の検討（資源循環推進課）

- 小型充電式電池の拠点回収について検討しました。

2. ごみの発生・排出抑制のための方策

(1) 発生抑制（リデュース）

①市民に対する発生抑制に関する啓発（資源循環推進課）

- ・ごみ教室やごみトークの開催、ごみ分別パンフレットの発行などにより啓発を行いました（2. (4)①～⑥⑧⑫のとおり）。

②生ごみ等減量化処理機器の購入費補助（資源循環推進課）

- ・電気式生ごみ処理機 54 基、EM処理容器 2 基、コンポスト容器 26 基、小枝粉碎機 15 基の購入費を補助しました（購入費の1/2、限度額3万円）。
- ・広報よこすかへ掲載するなど、生ごみ等減量化処理機器の普及に努めました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
電気式生ごみ処理機	53 基	56 基	51 基	65 基	54 基
EM処理容器	6 基	5 基	3 基	1 基	2 基
コンポスト容器	34 基	37 基	23 基	25 基	26 基
小枝粉碎機	6 基	5 基	6 基	6 基	15 基

③食品ロス削減に向けた取組み（資源循環総務課）（資源循環推進課）

- ・横須賀市の食品ロスの実態を調査するため、食品ロス組成調査を実施しました。
- ・アイクルフェアで、食品ロスに関するパネル展示を2回実施しました。
- ・ごみトークや子どもごみ教室などで、食品ロス削減について啓発しました。

④事業者に対する発生抑制に関する啓発（廃棄物対策課）

- ・事業系ごみ適正処理の手引きを令和2年4月に1,676部配布しました。
- ・事業者向けの食品ロス削減啓発ポスターを3,000部作製しました。（令和2年4月までに1,288部配布）
- ・廃棄物の減量化・資源化を推進するため、事業系一般廃棄物多量排出事業者から事業系一般廃棄物減量化等計画書兼実績報告書を224件受理し、集計結果をホームページで公表しました。（再掲）

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
事業系一般廃棄物減量化等計画書兼実績報告書の受理	203 件	203 件	215 件	218 件	224 件

(2) 再使用（リユース）

①再生家具の提供（リサイクルプラザ）

- ・粗大ごみで回収した家具の一部を補修して展示し、2回のアイクルフェアで55個提供しました。近年は、粗大ごみ中の再生できる小型の家具が減少傾向にあるため、再生家具の提供数も減少しています。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
再生家具提供個数	143 個	154 個	136 個	128 個	55 個

②古本・古着市の開催（リサイクルプラザ）

- ・集団資源回収で回収した古本・古着について、アイクルフェアで、古本・古着市を2回開催しました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
古本・古着市	3 回	3 回	3 回	3 回	2 回

(3)再生利用（リサイクル）

①庁舎内から出るごみの減量化・資源化の推進（資源循環推進課）

- ・庁舎内から出る古紙及び廃蛍光管の資源化を継続して実施し、古紙 169,160 kg、廃蛍光管 3,180 kg（12,720本）を回収しました。 ※本数は、1kgあたり4本に換算して算出

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
古紙	174,880kg	164,040kg	176,990kg	161,550kg	169,160kg
廃蛍光管	2,749kg 10,996本	3,498kg 13,992本	3,570kg 14,280本	3,284kg 13,136本	3,180kg 12,720本

②グリーン購入の推進（環境企画課）

- ・「横須賀市グリーン購入調達方針」において、毎年、対象品目や判断基準を見直し、全庁的にグリーン購入の推進に取り組んでいます。対象品目 19分野 97品目で集計し、9分野 35品目で90%以上を達成しました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
グリーン購入	対象品目 21分野 97品目で集計し、10分野 38品目で90%以上を達成	対象品目 21分野 98品目で集計し、7分野 38品目で90%以上を達成	対象品目 20分野 98品目で集計し、8分野 38品目で90%以上を達成	対象品目 20分野 98品目で集計し、5分野 32品目で90%以上を達成	対象品目 19分野 97品目で集計し、9分野 35品目で90%以上を達成

③公共工事等における再生資源の使用（環境企画課）

- ・3品目で100%を達成しました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
公共工事	仕様を満たす適合品なし	2品目で100%を達成	2品目で100%を達成	1品目で100%を達成	3品目で100%を達成

④リサイクルに向けた事業者の取組み支援（廃棄物対策課）

- ・神奈川県が主催する事業系食品廃棄物のリサイクル促進についての事業者向けセミナーに参加しました。
- ・事業系剪定枝を資源化するため、廃棄物・造園関係の組合等への説明、造園業者等にチラシの配布等を行い周知しました。

(4)周知・啓発

①ごみ教室の開催、啓発冊子の発行（資源循環推進課）

- ・子どもごみ教室を43回開催し2,843人が参加しました。
- ・児童用ごみ減量啓発冊子を4,000部作製しました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
子どもごみ教室	34回 1,894人	31回 1,972人	37回 2,129人	42回 2,690人	43回 2,843人
啓発冊子	4,500部作製	4,500部作製	4,500部作製	3,800部作製	4,000部作製

②ごみ分別パンフレットや収集カレンダーの発行（資源循環推進課）

- ・分別収集カレンダー220,000部作製、パンフレット225,000部作製しました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
分別収集カレンダー	220,000部作製	220,000部作製	220,000部作製	220,000部作製	220,000部作製
パンフレット	25,000部作製	25,000部作製	25,000部作製	作製なし	225,000部作製

③外国人向け分別パンフレットの発行（資源循環推進課）

- ・英語 9,000 部、中国語、韓国語各 350 部、スペイン語、ポルトガル語各 150 部作製しました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
英語版	4,000 部作製	4,000 部作製	4,000 部作製	4,000 部作製	9,000 部作製
中国語、韓国語版	各 250 部作製	各 250 部作製	各 250 部作製	各 350 部作製	各 350 部作製
スペイン語、ポルトガル語版	各 250 部作製	各 250 部作製	各 250 部作製	各 150 部作製	各 150 部作製

④ごみ分別アプリの配信（資源循環推進課）

- ・スマートフォン用ごみ分別アプリのダウンロード数は、8,444 でした。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
ダウンロード数	2,857	3,641	4,818	5,009	8,444

⑤広報紙・ホームページによる周知・啓発（資源循環推進課）

- ・広報よこすかに 11 回、24 件を掲載しました。
- ・HP「ごみデータ in よこすか」を毎月更新し、ごみ量の推移を周知しました。
- ・ポスター・標語を募集しました。（小中学生応募数：ポスター1,212 点、標語 507 点）
- ・立て看板、ポスター、懸垂幕、横断幕等による啓発を実施しました（6 月、10 月各 1 か月間）

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
広報よこすか	11 回 29 件	12 回 35 件	12 回 43 件	11 回 35 件	11 回 24 件
ポスター	1,963 点	1,506 点	1,440 点	1,447 点	1,212 点
標語	669 点	673 点	699 点	545 点	507 点

⑥ごみトーク・ごみ問題学習会の開催（資源循環推進課）

- ・ごみトークを 276 回実施し 11,539 人、ごみ問題学習会を 7 回実施し 128 人が参加しました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
ごみトーク	32 回 2,473 人	30 回 2,366 人	42 回 2,665 人	34 回 2,469 人	276 回 11,539 人
ごみ問題学習会	17 回 414 人	13 回 265 人	15 回 288 人	10 回 173 人	7 回 128 人

⑦アイクルフェアの開催（リサイクルプラザ）

- ・アイクルフェアを 2 回開催しました。コロナウィルス感染症により開催回数が減り、来場者数も延べ 5,300 人と例年より減少しました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
アイクルフェア	3 回 延べ10,400 人	3 回 延べ9,500 人	3 回 延べ8,000 人	3 回 延べ8,700 人	2 回 延べ5,300 人

⑧市民と協働した啓発活動の実施（資源循環推進課）

- ・6月をクリーンよこすか推進月間とし、美化活動に延べ86,023人、クリーンよこすか市民のつどいに419人が参加しました。
- ・11月にクリーンよこすか中央会議を実施し490人が参加しました。
- ・ごみダイエット推進員研修会を10回実施し250人、施設見学会を9回実施し158人が参加しました。
- ・6月に6日間、10月に6日間、ポイ捨て防止街頭キャンペーンを実施し240人が参加しました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
クリーンよこすか推進月間における美化活動の実施	延べ106,458人	延べ95,760人	延べ91,971人	延べ94,140人	延べ86,023人
クリーンよこすか市民のつどい	565人	546人	547人	544人	419人
クリーンよこすか中央会議	718人	670人	687人	697人	490人
ごみダイエット推進員研修会	10回 248人	10回 218人	10回 245人	10回 183人	10回 250人
施設見学会	9回 124人	3回 62人	9回 128人	3回 51人	9回 158人
ポイ捨て防止街頭キャンペーン	346人	328人	290人	302人	240人

⑨アイクル施設見学による周知・啓発（リサイクルプラザ）

- ・137団体、7,398人（うち、小学生のリサイクル学習46校、2,908人）の見学者に対し、分別排出の周知に努めました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
アイクル施設見学	140団体 8,712人	135団体 8,053人	137団体 7,668人	127団体 7,254人	137団体 7,398人
小学生のリサイクル学習	46校 3,175人	46校 3,211人	46校 3,149人	47校 3,069人	46校 2,908人

⑩南処理工場見学による適正処理の周知（南処理工場）

- ・20団体、1,205人が来場しました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
南処理工場見学	25団体 1,456人	29団体 1,288人	26団体 1,307人	18団体 1,058人	20団体 1,205人

⑪事業系一般廃棄物多量排出事業者に対する指導（廃棄物対策課）

- ・事業系ごみ適正処理の手引きを令和2年4月に1,676部配布しました。
- ・事業者向けの食品ロス削減啓発ポスターを3,000部作製しました。（令和2年4月までに1,288部配布）
- ・廃棄物の減量化・資源化を推進するため、事業系一般廃棄物多量排出事業者から事業系一般廃棄物減量化等計画書兼実績報告書を224件受理し、集計結果をホームページで公表しました。（再掲）

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
事業系一般廃棄物減量化等計画書兼実績報告書の受理	203件	203件	215件	218件	224件

⑫ごみ集積所における排出指導（資源循環推進課）（資源循環久里浜事務所）

- ・市民等への分別排出指導を 356 件、ごみ集積所の新設・移設等を 267 件実施しました。
- ・ごみ収納ボックス を 361 台・カラス除けネット を 2,224 枚配付しました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
市民等への分別排出指導	330 件	292 件	309 件	446 件	356 件
ごみ集積所の新設・移設等	292 件	240 件	253 件	239 件	267 件
ごみ収納ボックス	486 台	407 台	486 台	480 台	361 台
カラス除けネット	2,530 枚配付	2,388 枚配付	2,456 枚配付	2,401 枚配付	2,224 枚配付

(5) その他

①各リサイクル法に関する周知・啓発（資源循環総務課）（資源循環推進課）（廃棄物対策課）
（リサイクルプラザ）

- ・パンフレット、HP 掲載等による周知・啓発を継続実施しました。

②家庭ごみ有料化の検討（資源循環総務課）

- ・全国自治体の有料化導入状況の調査、県内で導入を検討している自治体の情報収集を行いました。ごみの減少傾向が進んでいることから、当面導入の予定はありませんが、将来的な検討の必要性を考慮して引き続き調査を行いました。

③廃棄物処理手数料の検討（資源循環総務課）

- ・他都市の廃棄物処理手数料の状況を調査しました。
- ・消費税の改定に伴い、粗大ごみ処理手数料と小動物処理手数料を改定しました。

3. 分別収集と適正処理

(1) 分別収集区分

①ごみの種類・分別区分、排出方法の見直し（資源循環総務課）（資源循環推進課）

- ・令和 2 年 1 月から横須賀ごみ処理施設の稼働に伴い、主に不燃ごみに分別されていたプラスチック・ゴム製品の分別区分を燃せるごみに変更しました。
- ・令和元年 11 月から事業系剪定枝の搬入先を市の焼却施設から民間の資源化処理施設品変更しました。

(2) 収集運搬計画

①直営委託区域（資源循環総務課）

- ・区域に変更はなく、引き続き、14 地区を委託収集区域として定日ごみ収集を行いました。世帯割合は、直営収集区域 36.9%、委託収集区域 63.1%（令和元年 10 月 1 日現在）でした。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
直営収集区域	37.2%	37.0%	36.9%	36.8%	36.9%
委託収集区域	62.8%	63.0%	63.1%	63.2%	63.1%

(3) 中間処理計画

①再資源化処理（リサイクルプラザ）

- 缶・びん・ペットボトル、容器包装プラスチック、集団資源回収品目（段ボール・紙パック・その他の紙）について、容器包装リサイクル法に基づく中間処理（選別・圧縮または圧縮梱包）を行い、再資源化しました。搬入量は18,484トン、資源化量は17,785トンでした。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
搬入量	19,741 トン	19,209 トン	19,053 トン	18,786 トン	18,484 トン
資源化量	18,956 トン	18,777 トン	18,613 トン	18,227 トン	17,785 トン

②焼却処理（南処理工場）

- 燃せるごみとして収集・直接搬入されたごみのほか、粗大ごみ処理施設で破砕処理した後の木質系ごみ等を焼却し、最終処分するごみの減容、及び衛生的処理を行いました。搬入量は101,055トン、焼却量は93,645トンでした。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
搬入量	101,296 トン	100,336 トン	99,431 トン	98,173 トン	101,055 トン
焼却量	89,372 トン	92,175 トン	89,338 トン	91,555 トン	93,645 トン

③粗大ごみ処理（南処理工場）

- 委託による戸別収集や直接搬入された粗大ごみを形状・材質等に応じて前処理し、破砕処理を行った後、可燃物は焼却し、鉄類は磁選機で資源物として回収しました。搬入量は、4,190トン、処理量は4,648トンでした。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
搬入量	3,179 トン	3,114 トン	3,233 トン	3,472 トン	4,190 トン
処理量	3,185 トン	3,095 トン	3,186 トン	3,383 トン	4,648 トン

④民間施設における中間処理（資源循環総務課）（資源循環推進課）

- 店頭等で拠点回収した使用済み乾電池96トン、水銀使用廃製品（体温計、温度計、血圧計）654個を民間処理施設へ処理委託しました。
- 市内17か所の公共施設等でボックス回収した使用済み小型家電24トンを、国の認定を受けた再資源化事業者へ引き渡しました。
- アィクル搬入分を除く集団資源回収15,520トンは、資源回収協同組合により有価物として直接売却されました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
使用済み乾電池	91 トン	93 トン	99 トン	92 トン	96 トン
水銀使用廃製品	—	—	1,452 個	715 個	654 個
使用済み小型家電	15 トン	19 トン	16 トン	20 トン	24 トン
集団資源回収 (アィクル搬入分を除く)	19,339 トン	18,151 トン	17,292 トン	16,224 トン	15,520 トン

(4)最終処分計画

①最終処分（南処理工場）

- ・不燃ごみの処分は、自区内の最終処分場が終了していることから、県外の最終処分場3社に搬出して埋立処分しました。埋立量は3,981トン、破碎不適物処分量は41トンでした。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
埋立量	5,352トン	5,015トン	5,083トン	4,937トン	3,981トン
破碎不適物処分量	15トン	14トン	20トン	15トン	41トン

(5)施設整備状況

①施設の長寿命化・延命化対策（資源循環施設課）

- ・本年度、該当工事はありませんでした。

(6)広域処理施設整備状況

①横須賀ごみ処理施設の整備（広域処理施設建設室）

- ・横須賀ごみ処理施設建設に伴う工事を実施しました。
- ・環境影響評価（環境アセスメント）事後調査及び届出を実施しました。
- ・「横須賀ごみ処理施設建設対策協議会」と協議を実施しました。
- ・町内会等を対象とした説明会を実施しました。

4. その他必要事項

(1)計画の進行管理

①計画の点検・評価・見直しの実施（資源循環総務課）

- ・平成30年度実績を基に、計画の数値目標などの達成状況について評価を実施しました。

(2)家庭ごみ有料化の検討

①家庭ごみ有料化の検討（資源循環総務課）

- ・全国自治体の有料化導入状況の調査、県内で導入を検討している自治体の情報収集を行いました。ごみの減少傾向が進んでいることから、当面導入の予定はありませんが、将来的な検討の必要性を考慮して引き続き調査を行いました。

(3)高齢化社会対策

①高齢者のごみ出し支援の検討（資源循環総務課）（資源循環推進課）

- ・福祉部主管の会議・研修に出席して情報収集し、ごみ出し支援の方法について、福祉部と検討を重ねました。
- ・令和元年6月1日から高齢者等支援収集事業を実施しました。

(4) 災害時の廃棄物対策

① 災害時の廃棄物処理体制の確保（資源循環総務課）

- ・大規模災害時廃棄物対策関東ブロック協議会が実施した研修会等に参加し、情報収集を行いました。
- ・台風 15 号・19 号により被災した千葉県内の自治体に対して、災害廃棄物の収集運搬や処理、事務職員派遣等の支援を行いました。

(5) 不法投棄対策

① 不法投棄防止対策の強化（資源循環推進課）

- ・パネル展を 10 か所で開催、警察との合同パトロールを 11 回実施、移動式監視カメラの活用をしました。
- ・巡回調査等を延べ 23,050 か所実施し、処理量は 44.42 トンでした。
- ・不法投棄防止対策として夜間監視パトロールを 10 日間実施しました。
- ・不法投棄多発地域 10 か所に環境ポスターを掲出しました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
パネル展	10 か所	10 か所	10 か所	10 か所	10 か所
警察との合同パトロール	12 回	11 回	11 回	11 回	11 回
広報掲示板へポスター掲出	436 か所	436 か所	435 か所	—	—
巡回調査等	延べ 23,530 か所 60.76 トン	延べ 25,241 か所 46.43 トン	延べ 21,667 か所 46.68 トン	延べ 23,024 か所 49.14 トン	延べ 23,050 か所 44.42 トン
夜間監視パトロール	1 日間	1 日間	2 日間	10 日間	10 日間
不法投棄多発地域への環境ポスター掲出	5 か所	6 か所	6 か所	7 か所	10 か所

(6) ポイ捨て防止及び路上禁煙

① ポイ捨て防止及び路上禁煙の徹底（資源循環推進課）

- ・ごみゼロ啓発キャンペーンを実施しました（5月）。
- ・年末年始キャンペーンを実施しました（12月）。
- ・巡回指導を 241 回、喫煙中止指導を 245 件実施しました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
巡回指導	260 回	263 回	258 回	260 回	241 回
喫煙中止指導	465 件	323 件	208 件	241 件	245 件

② クリーンよこすかの推進に関すること（資源循環推進課）

- ・キャラバン隊キャンペーン等を 87 コース実施し、2,618 人が参加しました。
- ・イベントにおける清掃活動等を 20 回実施し、1,053 人が参加しました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
キャラバン隊キャンペーン等	100 コース 3,632 人	81 コース 2,530 人	82 コース 1,911 人	105 コース 2,025 人	87 コース 2,618 人
イベントにおける清掃活動等	24 回 1,474 人	22 回 1,307 人	23 回 1,299 人	21 回 1,064 人	20 回 1,053 人

(7) 海岸漂着ごみ

①海岸漂着ごみの円滑処理（資源循環推進課）

- ・（公財）かながわ海岸美化財団により海浜地清掃を実施し、処理量は 193,583 kg でした。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
処理量	115,985kg	76,485kg	89,375kg	90,922kg	193,583kg

(8) 適正処理困難物・排出禁止物

①適正処理困難物・排出禁止物の処理に関する指導（資源循環総務課）（資源循環推進課）（南処理工場）（資源循環久里浜事務所）

- ・各施設の実態や横須賀ごみ処理施設の稼働を考慮し、受け入れる一般廃棄物の追加・削除品目を検討する等、受入基準の見直しを行いました。
- ・市民からの問い合わせや持ち込み時に適正処理困難物・排出禁止物の指導を行いました。

(9) 制度改善要望

①一般廃棄物の処理に関する制度改善要望（資源循環総務課）

- ・県市長会、神都清、全都清などを通じて、一般廃棄物の適正処理に関する制度改善要望 14 件（延べ 19 件）を国・県に提出しました。

参考指標	H27	H28	H29	H30	R1
改善要望	8 件 (延べ 14 件)	8 件 (延べ 13 件)	12 件 (延べ 17 件)	14 件 (延べ 19 件)	14 件 (延べ 19 件)

総合評価

「横須賀市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」（平成 29 年度～令和 3 年度）の進行管理は、平成 27 年度実績に基づき設定した目標値の達成状況と、重点施策および関連施策・事業等の実施状況についての評価により実施します。

令和元年度のごみ総排出量は 131,299 トンであり、昨年度（平成 30 年度）実績と比較して 0.58% 増加しましたが、基準年度（平成 27 年度）実績と比較すると 5.1% 減少しています。目標値（令和 3 年度）達成に向け、引き続き減量化策を推進していく必要があります。

また、集団資源回収量は 20,106 トンで、基準年度（平成 27 年度）実績と比較して 17.1% 減少したため、目標値（令和 3 年度）の水準を維持することができませんでした。引き続き、集団資源回収への分別について啓発を推進するとともに、新たな回収品目の追加や更なる資源化策の実施等を含めて検討していきます。

焼却量、埋立量については、基準年度（平成 27 年度）実績と比較して、それぞれ 0.7%、20.5% と減少していますが、目標達成に向け大幅な削減が必要です。令和元年 11 月より開始した事業系剪定枝の資源化や、令和 2 年 3 月より本稼働を開始した横須賀ごみ処理施設での処理により、令和 2 年度以降に大幅な削減を見込んでいます。

重点施策に掲げたごみ処理広域化計画による横須賀ごみ処理施設の建設は、平成 29 年度に建築工事に着工し、計画通り令和 2 年 3 月より本稼働を開始しました。今後も引き続き、ごみの発生・排出抑制に向けた取り組みを進め、安定したごみ処理を目指します。

◎ ごみ処理実績について

1 排出量

(1) 種別別排出量

単位：トン

区分	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	元年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
燃せるごみ		90,667	89,399	88,469	87,213	88,862	1,649	1.9%
不燃ごみ		5,417	5,090	5,105	5,034	4,449	△ 585	△ 11.6%
資源ごみ		14,945	14,462	14,390	14,270	14,053	△ 217	△ 1.5%
	缶・びん・ペットボトル	6,914	6,621	6,522	6,311	6,171	△ 140	△ 2.2%
	容器包装プラスチック	7,911	7,724	7,746	7,835	7,747	△ 88	△ 1.1%
	乾電池等	113	110	111	115	122	7	6.1%
	その他	7	7	11	9	13	4	44.4%
粗大ごみ		3,064	2,900	2,986	3,140	3,829	689	21.9%
小計		114,093	111,851	110,950	109,657	111,193	1,536	1.4%
集団資源回収		24,262	23,029	22,091	20,881	20,106	△ 775	△ 3.7%
合計		138,355	134,880	133,041	130,538	131,299	761	0.6%

(2) 収集等形態別排出量

単位：トン

区分	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	元年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
定日収集		83,489	81,214	80,196	78,663	79,641	978	1.2%
	燃せるごみ	63,464	62,004	61,084	59,769	61,557	1,788	3.0%
	不燃ごみ	5,206	4,870	4,852	4,755	4,176	△ 579	△ 12.2%
	缶・びん・ペットボトル	6,909	6,617	6,516	6,305	6,165	△ 140	△ 2.2%
	容器包装プラスチック	7,910	7,723	7,744	7,834	7,743	△ 91	△ 1.2%
許可収集		20,691	20,435	20,443	20,611	20,192	△ 419	△ 2.0%
乾電池等収集		113	110	111	115	122	7	6.1%
粗大ごみ等収集		1,054	982	969	976	1,124	148	15.2%
臨時収集		817	799	817	816	904	88	10.8%
直接搬入		7,929	8,311	8,414	8,476	9,210	734	8.7%
小計		114,093	111,851	110,950	109,657	111,193	1,536	1.4%
集団資源回収		24,262	23,029	22,091	20,881	20,106	△ 775	△ 3.7%
合計		138,355	134,880	133,041	130,538	131,299	761	0.6%

(3) 他市受入れ量

単位：トン

区分	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	元年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
三浦市 一般ごみ		7,887	7,849	7,779	7,668	8,268	600	7.8%
千葉県 災害ごみ		-	-	-	-	115	115	-

2 処分量（処理施設搬入量）

単位：トン

区分	年度					元年度対前年度比較	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増△減	増減割合
焼却施設	101,296	100,336	99,431	98,173	101,055	2,882	2.9%
積替保管施設(不燃ごみ)	5,417	5,090	5,105	5,034	4,489	△ 545	△ 10.8%
資源化施設	19,741	19,209	19,053	18,786	18,484	△ 302	△ 1.6%
積替保管施設(枝草)	-	-	-	-	176	176	-
粗大処理施設	3,179	3,114	3,233	3,472	4,190	718	20.7%
直接資源化	19,547	18,282	16,991	15,975	15,282	△ 693	△ 4.3%
合計	149,180	146,031	143,813	141,440	143,676	2,236	1.6%

注1) 積替保管施設（不燃ごみ）の処分量は、不燃ごみ等選別施設の処分量を含む。

注2) 資源化施設処分量には、リサイクルプラザに搬入される集団資源回収（段ボール、紙パック、その他の紙）を含む。

3 資源化量

単位：トン

区分	年度					元年度対前年度比較	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増△減	増減割合
リサイクルプラザ	18,956	18,777	18,613	18,227	17,785	△ 442	△2.4%
集団資源回収	19,339	17,702	16,855	15,834	15,127	△ 707	△4.5%
焼却灰スラグ化ほか	6,375	6,854	6,549	6,945	7,517	572	8.2%
粗大金属ほか	527	464	438	478	843	365	76.4%
合計	45,197	43,797	42,455	41,484	41,272	△ 212	△0.5%

注) 集団資源回収のうち段ボール、紙パック、その他の紙はプラザの資源化に含む。

4 資源化率

区分	年度					元年度対前年度比較	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増△減	増減割合
資源化率	32.7%	32.5%	31.9%	31.8%	31.4%	△ 0.4%	-
県内平均資源化率	25.2%	24.8%	24.4%	24.3%		-	-
全国平均資源化率	20.4%	20.3%	20.2%	19.9%		-	-

注) 資源化率(%) = 【資源化量】 ÷ 【排出量合計(集団資源回収量を含む)】 × 100

5 1人1日排出量

単位：グラム

区分	年度					元年度対前年度比較	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増△減	増減割合
集団回収を除く	750	743	742	740	758	18	2.4%
集団回収を含む	910	896	890	881	895	14	1.6%

【参考】

区分	年度				
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人口（人）	415,375	412,413	409,478	406,003	401,977
世帯数（世帯）	189,831	190,249	191,026	191,542	191,703

注) 人口及び世帯数は10月1日現在の住民基本台帳による。

【参考】

神奈川県一般廃棄物処理実績報告の定義に基づく生活系、事業系ごみの内訳

1 生活系ごみについて

(1) 排出量

単位：トン

区分	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	元年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
可燃ごみ		63,494	62,015	61,120	59,792	61,611	1,819	3.0%
不燃ごみ		5,207	4,871	4,855	4,757	4,176	△ 581	△ 12.2%
資源ごみ		14,946	14,471	14,396	14,280	14,063	△ 217	△ 1.5%
粗大ごみ		3,004	2,850	2,933	3,085	3,745	660	21.4%
小計		86,651	84,207	83,304	81,914	83,595	1,681	2.1%
集団回収量		24,251	22,562	21,631	20,467	19,682	△ 785	△ 3.8%
合計		110,902	106,769	104,935	102,381	103,277	896	0.9%

注) 概ね、定日収集、粗大ごみ（収集・直接搬入）、乾電池等収集、集団資源回収の合計。

(2) 1人1日排出量

単位：グラム

区分	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	元年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
集団回収を含む		707	702	702	691	704	13	1.9%

2 事業系ごみについて

(1) 排出量

単位：トン

区分	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	元年度対前年度比較	
							増△減	増減割合
可燃ごみ		27,173	27,833	27,786	27,811	27,644	△ 167	△ 0.6%
不燃ごみ		210	219	250	277	273	△ 4	△ 1.4%
資源ごみ		10	9	17	14	21	7	50.0%
粗大ごみ		60	50	53	55	84	29	52.7%
合計		27,453	28,111	28,106	28,157	28,022	△ 135	△ 0.5%

注) 概ね、許可収集、直接搬入（燃せるごみ・不燃ごみ・資源ごみ）の合計。
直接搬入分は、集計の都合上、一部市民からの持ち込み分を含む。

令和元年度ごみ排出量及び資源化量の内訳

ごみの種類	排出量 (トン)		資源物	資源化量(トン)	資源化率
燃せるごみ	88,862	≫	焼却灰 (溶融スラグ)	7,303	5.56%
粗大ごみ	3,829	≫	粗大金属	158	0.12%
			金属チップ(鉄)	523	0.40%
			金属チップ(アルミ)	7	0.01%
			家具	2	0.00%
缶・びん・ペット ボトル	6,171	≫	スチール缶	594	0.45%
			アルミ缶	762	0.58%
			びん(無色、茶色、 その他の色)	1,810	1.38%
			ペットボトル	1,533	1.16%
			ガラス残さ	929	0.71%
容器包装プラス チック	7,747	≫	容器包装プラス チック	7,606	5.79%
段ボール、紙パッ ク、その他の紙	4,566	≫	段ボール	3,420	2.60%
			紙パック	74	0.05%
			その他の紙	1,057	0.80%
乾電池、小型家電	122	≫	乾電池	96	0.07%
			小型家電	24	0.02%
新聞、雑誌、古着 類、その他金属	15,522	≫	新聞、雑誌、古着 類・その他金属	15,129	11.52%
蛍光管類	31	≫	蛍光管類	31	0.02%
不燃ごみ	4,449	≫	不燃金属	214	0.16%
合 計	131,299		合 計	41,272	31.4%

* 令和元年度 資源化率は、 $41,272 \div 131,299 \times 100 = 31.4\%$

県内19市の資源化率と原単位(1人1日排出量)

『神奈川県一般廃棄物処理事業の概要』を基に作成

平成29年度 (2017年度)			平成30年度 (2018年度)			
資源化率	原単位	集団回収を含む原単位	資源化率	原単位	集団回収を含む原単位	
1. 鎌倉 52.0%	1. 逗子 690g	1. 座間 720g	1. 鎌倉 52.5%	1. 逗子 685g	1. 座間 734g	
2. 逗子 47.4%	2. 座間 702g	2. 綾瀬 785g	2. 逗子 46.4%	2. 横浜 717g	2. 大和 779g	
3. 三浦 38.2%	3. 横浜 726g	3. 大和 790g	3. 三浦 38.4%	3. 座間 718g	3. 綾瀬 783g	
4. 横須賀 31.9%	4. 藤沢 736g	4. 茅ヶ崎 798g	4. 横須賀 31.8%	4. 藤沢 729g	4. 茅ヶ崎 785g	
5. 海老名 31.5%	5. 川崎 750g	5. 海老名 821g	5. 海老名 30.8%	5. 川崎 737g	5. 海老名 796g	
6. 座間 30.5%	6. 伊勢原 759g	6. 秦野 823g	6. 藤沢 29.7%	6. 伊勢原 751g	6. 川崎 807g	
7. 藤沢 29.4%	7. 横須賀 761g	7. 川崎 824g	7. 座間 29.6%	7. 横須賀 758g	7. 秦野 814g	
8. 綾瀬 28.3%	8. 綾瀬 785g	8. 伊勢原 834g	8. 綾瀬 27.6%	8. 大和 779g	8. 逗子 830g	
9. 平塚 25.4%	9. 大和 790g	9. 逗子 844g	9. 平塚 25.4%	9. 綾瀬 783g	9. 伊勢原 831g	
10. 大和 24.7%	10. 茅ヶ崎 798g	10. 横浜 848g	10. 厚木 25.0%	10. 茅ヶ崎 785g	10. 横浜 833g	
11. 厚木 24.6%	11. 秦野 812g	11. 相模原 870g	11. 大和 24.9%	11. 海老名 796g	11. 相模原 865g	
12. 南足柄 24.3%	12. 海老名 821g	12. 藤沢 876g	12. 南足柄 24.2%	12. 秦野 805g	12. 藤沢 865g	
13. 横浜 23.6%	13. 相模原 852g	13. 平塚 881g	13. 横浜 23.5%	13. 相模原 848g	13. 平塚 871g	
14. 小田原 23.0%	14. 平塚 881g	14. 南足柄 896g	14. 秦野 23.4%	14. 平塚 871g	14. 南足柄 894g	
15. 茅ヶ崎 21.5%	15. 南足柄 896g	15. 横須賀 909g	15. 小田原 22.3%	15. 南足柄 894g	15. 厚木 898g	
16. 秦野 21.4%	16. 厚木 910g	16. 厚木 910g	16. 茅ヶ崎 21.5%	16. 厚木 898g	16. 横須賀 899g	
17. 相模原 20.2%	17. 鎌倉 950g	17. 鎌倉 950g	17. 相模原 19.6%	17. 三浦 930g	17. 鎌倉 932g	
18. 川崎 19.4%	18. 三浦 959g	18. 小田原 991g	18. 川崎 19.1%	18. 鎌倉 932g	18. 三浦 963g	
19. 伊勢原 18.6%	19. 小田原 991g	19. 三浦 992g	19. 伊勢原 18.9%	19. 小田原 992g	19. 小田原 992g	
19市平均	24.4%	771g	852g	24.2%	762g	839g
県内平均	24.4%	780g	859g	24.3%	770g	846g
全国数値	20.2%	874g	920g	19.9%	874g	918g

注) 神奈川県一般廃棄物処理実績報告の原単位は、「推計人口」を用いているため、本市のごみ処理実績の1人1日排出量(17ページ)と一致しない。

全国の資源化率（人口10万人以上50万人未満）

平成30年度			
順位	県名	市名	資源化率（%）
1	神奈川県	鎌倉市	52.0
2	東京都	小金井市	51.3
3	岡山県	倉敷市	44.0
4	埼玉県	加須市	38.4
5	東京都	国分寺市	37.9
6	東京都	東村山市	36.3
7	愛知県	小牧市	36.1
8	東京都	調布市	36.0
9	東京都	立川市	35.0
10	東京都	西東京市	33.8
11	東京都	武蔵野市	33.3
12	東京都	府中市	32.8
13	東京都	三鷹市	31.9
14	神奈川県	横須賀市	31.8
15	東京都	東久留米市	31.6
16	北海道	苫小牧市	31.4
17	埼玉県	朝霞市	31.4
18	兵庫県	宝塚市	30.3
19	東京都	昭島市	30.0
20	愛知県	豊橋市	29.9

* 「一般廃棄物処理実態調査結果」（令和2年3月 環境省）を基に作成

* 人口10万人以上50万人未満の236自治体中15位

県内19市のごみ処理経費(平成30年度実績)

『神奈川県一般廃棄物処理事業の概要』を基に作成

総処理経費

順位	市区町村名	1ト当たり (円)
1	綾瀬市	24,733
2	平塚市	32,045
3	小田原市	33,185
4	座間市	33,888
5	南足柄市	34,306
6	横浜市	35,593
7	相模原市	37,460
8	川崎市	39,744
9	秦野市	39,777
10	伊勢原市	43,730
11	茅ヶ崎市	44,091
12	厚木市	46,693
13	横須賀市	47,367
14	大和市	47,947
15	海老名市	48,368
16	三浦市	52,646
17	鎌倉市	54,604
18	藤沢市	54,851
19	逗子市	64,119
19市合計(1ト当たり)		39,547

収集経費

順位	市区町村名	1ト当たり (円)
1	小田原市	18,133
2	南足柄市	19,649
3	秦野市	20,935
4	海老名市	21,338
5	相模原市	22,070
6	逗子市	24,757
7	綾瀬市	25,446
8	平塚市	25,540
9	伊勢原市	25,735
10	三浦市	27,610
11	茅ヶ崎市	27,969
12	横浜市	28,033
13	横須賀市	28,212
14	座間市	28,888
15	厚木市	31,290
16	川崎市	33,338
17	大和市	34,364
18	鎌倉市	40,414
19	藤沢市	46,963
19市合計(1ト当たり)		29,007

中間処理経費

順位	市区町村名	1ト当たり (円)
1	綾瀬市	4,207
2	横浜市	8,409
3	座間市	9,617
4	南足柄市	9,964
5	平塚市	11,947
6	川崎市	14,019
7	小田原市	15,532
8	茅ヶ崎市	16,554
9	伊勢原市	16,994
10	秦野市	17,125
11	鎌倉市	18,149
12	相模原市	21,085
13	厚木市	21,953
14	藤沢市	22,422
15	大和市	22,899
16	横須賀市	23,865
17	三浦市	31,723
18	海老名市	31,750
19	逗子市	39,469
19市合計(1ト当たり)		14,317

最終処分(埋立) 経費

順位	市区町村名	1ト当たり (円)
1	相模原市	5,205
2	川崎市	10,574
3	厚木市	33,496
4	小田原市	42,090
5	三浦市	44,421
6	茅ヶ崎市	48,150
7	横浜市	61,019
8	南足柄市	62,074
9	伊勢原市	70,258
10	大和市	71,799
11	秦野市	72,041
12	横須賀市	89,257
13	平塚市	125,759
14	藤沢市 ^{注1)}	732,717
15	鎌倉市 ^{注2)}	—
16	逗子市 ^{注2)}	—
17	海老名市 ^{注3)}	—
18	座間市 ^{注3)}	—
19	綾瀬市 ^{注3)}	—
19市合計(1ト当たり)		47,973

1人当たり年間処理経費

順位	市区町村名	1人当たり (円)
1	綾瀬市	7,065
2	座間市	8,881
3	横浜市	9,317
4	平塚市	10,183
5	川崎市	10,689
6	南足柄市	11,191
7	相模原市	11,588
8	秦野市	11,685
9	伊勢原市	11,980
10	小田原市	12,015
11	茅ヶ崎市	12,626
12	横須賀市	13,113
13	大和市	13,628
14	海老名市	14,051
15	藤沢市	14,596
16	厚木市	15,298
17	逗子市	16,023
18	三浦市	17,868
19	鎌倉市	18,578
19市合計(1ト当たり)		10,993

※推計人口数で算出

注1) 藤沢市は埋立量が191tと少なく、最終処分経費が139,949千円あるため単価が高くなっている。

注2) 鎌倉市と逗子市は不燃ごみを直接埋立てていないため、1ト当たりの経費を算出していない。

注3) 海老名市、座間市、綾瀬市は、3市で「高座清掃施設組合」を構成し、各市で組合分担金を支出しているが、組合金分担金は中間処理費に分類している。